

## 第37回日本保健医療行動科学会学術大会 大会長挨拶

この度、2023年6月17日(土)~18日(日)、第37回日本保健医療行動科学会学術大会を開催させていただき運びとなりました。開催に際し、多くのみなさまのご支援とご協力に心から感謝申し上げます。コロナ対策も行いながら対面での開催といたします。

(感染状況によっては、Web開催の可能性もあります)

本学術大会では、「未来志向の保健医療」をメインタイトルとしました。第36回大会での「ダイアログの姿勢の実践」を受けて、その実践において見定めるべきは「未来」ではないのかと。

以前、テレビで衝撃的なシーンを見ました。医師と患者が話し合っているシーンです。医師が若干、声を荒げながら、「それ以上飲んだら、死にますよ」と言っている。すりガラスの向こうにいる患者であろう人も負けてはいません。「私がお酒を辞めたら、会社がつぶれますっ」患者は会社の社長でした。その後の話を要約すると、接待で酒宴を

催さなければならない。そこで飲まないといった“無粋”なことにはできない。そういう主旨の患者側からの反論でした。

生きるということが一番大切で、「死んではいけない」と思い込んでいた私には、医師が繰り返した「死にますよ」という最後通牒をもろともせず、猛反論されました患者が衝撃的だったのです。

苦しい時、つらい時、この苦しみやつらさが、未来永劫続く、あるいは、もう未来などなく苦しい、つらい今があるだけという感覚に陥ったことはないですか。時間は流れ、時代は変化します。自分を取り巻く環境も変わります。人も移ろいます。

苦しい時、つらい時には、この時間の(流れていくという)感覚が失われているのではないのでしょうか。病を得たときも同じあのかもしれません。つまり、今よりも先の未来へ意識を向けてみるのが求められていると思います。

前述の医師と患者の会話も「今」の視点でのみ話し合っているように思えます。お互いに意識を未来に向けたときどうなるでしょうか。私の考えは大会長講演で。

「未来」についてともに語り合いましょう。語り合うことで、元気や勇気が得られるような大会にしたいと思います。皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

馬込武志 (東大阪大学)



## 第37回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内(第2報)[2022.12.1]

■テーマ: 未来志向の保健医療行動

■会期: 2023年6月17日(土)・18日(日)

■会場: 東大阪大学(東大阪市西堤学園町3-1-1)

[対面のみで開催予定]

■大会長: 馬込武志(東大阪大学)

■主催: 日本保健医療行動科学会

■実施主体: 第37回日本保健医療行動科学会学術大会実行委員会

※最新情報は、随時、第37回大会Webサイトに掲載されますので、そちらを確認してください。



## プログラム概要

※内容・時間は一部変更される場合があります。

### 6月17日(土)

10:00～ 受付開始

10:30～11:50 (拡大理事会)(顧問・評議員会)

12:00～12:50 (総会)

13:00～14:30 体験学習ワークショップ(他者と関わる技術)Ⅰ

①「おだいじに」だけでは済まない言葉かけレッスン」 諏訪茂樹(東京女子医科大学)

②「グラフィックファシリテーション」 講師(交渉中)

14:40～15:30 基調講演「未来志向の保健医療行動」

馬込武志(第37回大会長、東大阪大学)

15:40～16:55 一般演題口頭発表Ⅰ

17:00～17:40 一般演題ポスター発表Ⅰ

18:10～20:10 懇親会(東大阪市内某所)

### 6月18日(日)

09:00～ 受付開始

09:20～10:35 一般演題口頭発表Ⅱ

10:40～11:20 一般演題ポスター発表Ⅱ

11:30～12:30 特別講演「ストレスの正体」【市民公開講座】(一般の方も参加できます。)

中川 晶(京都看護大学、なかがわ中之島クリニック)

12:40～13:40 交流集会(学会指定と一般公募企画)(必要に応じて各自で昼食をとりながらの開催になります。)

学会指定「職種間理解のための対話的ミーティング」(学会企画共同研究チーム)シ

13:50～15:20 ンポジウム「未来をどう語るのか?(仮)」未定

15:30～17:00 体験学習ワークショップ(他者と関わる技術)Ⅱ

③「アンガーマネジメント」 講師(交渉中)

④「マインドフルネス」 講師(交渉中)

※ワークショップへの参加申込は、事前参加申込と同時に【事前参加申込】登録フォームで行ってください。

※各ワークショップとも、空きがある場合は先着順で当日参加も受け付けますが、準備の都合上、できるだけ事前申込をお願いいたします。

## 市民公開講座

2023年6月18日[日] 11:30～12:30の特別講演「ストレスの正体」は【市民公開講座】として

開催されます。対象:一般市民(学生を含む)。参加費:500円(当日受付でお支払いください。)

## 一般演題の登録及び抄録原稿提出について

(発表抄録は電子化されWebサイト等で公開される予定です。)

●演題の登録と同時に抄録原稿の提出(送付)をお願いします。抄録の採択審査を主に次の(1)(2)の観点で行います。審査結果は登録締め切り後1ヶ月以内に連絡する予定です。発表日程と順番は5月下旬頃までに連絡する予定です。(採択された抄録の著作権は日本保健医療行動科学会に帰属します。)

(1) 発表内容は保健医療行動科学に関連する研究または健康行動に関連する実践・活動等で、国内外を問わず未発表のものに限ります。

(2) 人及び動物が対象である研究報告及び実践・活動報告の場合は、倫理的配慮について抄録の本文中に明記してください。人が対象である研究報告においては、研究の計画立案や実施にあたって、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしはそれに準じる機関等の承認を得たことを本文中に記載してください。

**抄録様式:** 用紙はA4サイズ1枚(本文は2段組み)です。抄録書式を参考に抄録雛形(Word)を用いて作成してください。抄録書式および抄録雛形は第37回大会Webサイトからダウンロードしてください。

**演題登録:** 第37回大会専用の【一般演題発表】登録フォーム(第37回大会Webサイト参照)にて次の事項について登録を行い、抄録(Word)は、別途、電子メールにて第37回大会実行委員会事務局に送付してください。

電子メールアドレス (1) 氏名 (2) 氏名のフリガナ (3) 所属 (4) 演題タイトル  
(5) 希望の発表種別(研究または実践・活動、口頭またはポスターの別)

第37回大会Webサイト : <https://www.jahbs.info/taikai37.html>

抄録送付先: 第37回大会実行委員会事務局 電子メールアドレス [37jahbs@gmail.com](mailto:37jahbs@gmail.com)

**演題登録・抄録提出期限:** 2023年3月31日(金)(登録開始は2023年2月1日からの予定です。)

### <非会員の発表について>

●一般演題及び交流集会の発表者は、共同発表者を含めてすべて会員である必要があります。非会員の方は、入会のご案内をご参照の上、本学会入会申請Webサイトから入会手続きを行ってください。なお、会計年度(年会費)の関係もあり、3月中の入会については、次年度(4月)入会として取り扱います。

●非会員の方は、本学会Webサイトの入会申込から入会手続きをお済ませの上、「演題登録・抄録提出」及び「事前参加申込」を行ってください。「演題登録先及び事前参加申込先(第37回大会実行委員会事務局)」と「入会手続先(学会本部事務局)」は異なりますのでご注意ください。

## 交流集会企画の一般公募

※採択審査があります。

交流集会企画(一般公募)は、研究者グループが主体的に企画・運営し、参加者との学術的な交流を目的としています。保健医療行動科学に関連するそれぞれのテーマで自由な形式で発表及びフロア参加者とのディスカッションを行っていただきます。企画者の責任において開催することを考慮した上でご応募ください。

### 開催形式等

●持ち時間60分の自主運営とします。(必要に応じて各自で昼食をとりながらの開催になります。)

交流集会企画の登録及び抄録原稿提出について (発表抄録は電子化されWebサイト等で公開される予定です。)

●企画の登録と同時に抄録原稿の提出をお願いします。抄録の採択審査を行います。審査結果は登録締め切り後1ヶ月以内に連絡する予定です。(採択された抄録の著作権は日本保健医療行動科学会に帰属します。)

**抄録様式:**用紙はA4サイズ1枚(本文は2段組み)です。抄録書式を参考に抄録雛形(Word)を用いて作成してください。抄録書式および抄録雛形は第37回大会Webサイトからダウンロードしてください。

**演題登録:**第37回大会専用の【交流集会企画】登録フォーム(第37回大会Webサイト参照)にて次の事項について登録を行い、抄録は、別途、電子メールにて第37回大会実行委員会事務局に送付してください。

電子メールアドレス (1) 氏名 (2) 氏名のフリガナ (3) 所属 (4) 企画タイトル

第37回大会Webサイト:<https://www.jahbs.info/taikai37.html>

抄録送付先:第37回大会実行委員会事務局 電子メールアドレス [37jahbs@gmail.com](mailto:37jahbs@gmail.com)

企画の登録・抄録提出期限:2023年3月31日(金) (登録開始は2023年2月1日からの予定です。)

●交流集会の企画者(申込者)は、共同企画者を含めてすべて会員である必要があります。非会員の方は、上記「一般演題発表の募集」の「非会員の発表について」を参照してください。

## 大会参加費・懇親会費

大会参加費 事前申込: 会員5,000円、非会員6,000円、  
大学院生3,000円、学部学生2,000円

当日参加: いずれも上記の1,000円増しになります。

懇親会費 会員・非会員とも6,000円

## 事前参加申込の方法

※下記の事前参加登録と参加費振込を行ってください。

### 事前参加登録

● 第37回大会専用の【事前参加申込】登録フォーム(第37回大会Webサイト参照)にて、次の事項について登録を行ってください。

(第37回大会Webサイト: <https://www.jahbs.info/taikai37.html>)

電子メールアドレス (1) 氏名 (2) 氏名のフリガナ (3) 所属 (4) 参加種別 (5) 懇親会参加の有無 (6) 振込金額内訳 (7) 体験学習ワークショップの参加希望 (8) お弁当希望の有無

参加費振込 (下記の口座にお振り込みください。)

銀行名: りそな銀行 店名: 小阪支店(店番号254) 種目: 普通預金

口座番号: 0323413 受取人名: サンナナジエイエイエイチビーエス

事前参加申込(登録)期限: 2023年5月31日(水) (登録開始は2023年2月1日からの予定です。)

● 振り込みの完了をもって登録となります。登録フォーム(Webサイト)で登録をされましても、上記期限までにお振り込みがない場合は当日料金となります。振り込み手数料は申込者ご自身で負担してください。

## 大会事務局・問い合わせ等

第37回日本保健医療行動科学会学術大会実行委員会事務局

<連絡先> [37jahbs@gmail.com](mailto:37jahbs@gmail.com)

<郵便物等送付先> 〒577-0044 東大阪市西堤学園町3-1-1

東大阪大学短期大学部 馬込研究室内

## 「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集

### 【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において45歳未満の正会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会Webサイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規(2013.6.22.最終改定版)」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。2023年度受賞の応募期限は2023年3月末日です。

### 【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は1年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。



## 支部活動紹介

### 第108回東京支部研究会

【テーマ】内在化と外在化の質問

【ファシリテーター】蓮井貴子(東京医療保健大学)・樋口倫子(明海大学)

【研修内容】対人支援職の問う力と聴く力について学びます。

内省を促す質問と外在化の質問を活用し、対象の力になる対話について演習します。

【日 時】2022.12.11(日) 13:00-16:00

【会 場】オンライン(Zoom会場)

【定 員】20名

【参加費】会員無料(非会員¥2,000)

【参加方法】下記formにご入力ください

<https://forms.gle/w2GiWrQ3mABQ6aVTA>

【締め切り】12月5日(月)23時

【お問合せ】日本保健医療行動科学会東京支部研究会事務局 樋口倫子

Email : [nhiguch@meikai.ac.jp](mailto:nhiguch@meikai.ac.jp)

Tel : 047-355-5120



### 第109回東京支部研究会(人と人研究会共催)

【テーマ】ティーチングとコーチングによるスタッフ育成Ⅱ — ベテランへの効果的な質問

【講 師】諏訪茂樹(本学会会長)

【研修内容】よりよい仕事のために質問をして思考を促すという、スタッフを

サポートする本来のコーチングを、講義と演習を通して学びます。

【日 時】2023.3.4(土) 18:30-20:30

【会 場】オンライン(Zoom会場)

【参加費】会員無料(非会員¥2,000)

【詳細・申込】こくち一ずプロより

<https://www.kokuchpro.com/event/e52a204cdc57af7e029a63a34443c63d/>



### 第138回近畿支部研究会

日本保健医療行動科学会近畿支部事務局 (馬込武志)

Email : [jahbs.k@gmail.com](mailto:jahbs.k@gmail.com) (近畿支部専用アドレス)

### 第63回北海道支部研究会

【諸般の事情で休止中】

日本保健医療行動科学会北海道支部事務局 (森谷 満)

〒002-8072 札幌市北区あいの里 2 条 5 丁目

北海道医療大学病院内科・心療内科

Email : [jahbshokkaido@yahoo.co.jp](mailto:jahbshokkaido@yahoo.co.jp)

Tel : 011-778-7575 (病院代表)

### e メールアドレス登録の【重要なお願い】

会員管理システムの導入に伴い e メールアドレスの登録が必須となりました。e メールアドレスが未登録の方は、すみやかに学会事務局([info@jahbs.info](mailto:info@jahbs.info))までお知らせください。すでに e メールアドレスをご登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。

## 本の紹介

# 『ナイチンゲールの越境7 伝記』 —創造られたヒロイン、ナイチンゲールの虚像と実像—

中島俊郎、松野修、山崎麻由美、山中千恵、けいろ一、岩田恵里子、加納佳代子、宮本眞巳著、日本看護協会出版会、2022年6月刊(全195頁)

紹介者 本学会理事 宮本 眞巳



本書はF・ナイチンゲールの生誕から200年目に当たる2020年に刊行が開始された『ナイチンゲールの越境』シリーズの7冊目です。ナイチンゲールは、キュリー夫人、ヘレン・ケラーと並んで児童向け女性伝記シリーズの常連ですが、現代に至るまで評価の揺れ動いている人物です。クリミア戦争時の活躍により、博愛や献身の人として賞賛を浴びた一方で、協力者を組織して英国陸軍の官僚体制に闘いを挑み、守旧勢力からは敵意の対象となりました。また、フェミニストの間でも、看護師を専門職として成立させ女性の自立に大きく貢献したと評価される半面、看護師の専門性を女性の特質と結びつけて性別役割分業を固定化したとの批判もあります。この本は、彼女の評価が時代の変遷や評者の視点によってどのように異なり、それはどのような事情によるのかについて、7名の筆者が論じるという構成をとっており、私もその一人です。全体の構成として、まずはナイチンゲールの生涯が欧米諸国ではどのように評価され、日本ではどのように描かれてきたかが時代を追って紹介されています。さらに、児童向け学習漫画や、現代の漫画・アニメでナイチンゲール像がどのように扱われているかが紹介され、コラムでは、『ナイチンゲール誓詞』への疑問について論じられています。

それに加えナイチンゲール伝のサンプルとして、“講談看護師”の加納美千代(塩梅)さんによる創作講談『烈女ナイチンゲール』の講演録と、私が46年前に書いた児童向け『ナイチンゲール伝』が収録されています。それに加えて、ナイチンゲール伝の執筆から発行に至る経緯を振り返りながら、ナイチンゲールの現代性について問い直した一文を寄稿しました。

『ナイチンゲール伝』の執筆は、私が看護専門学校に入学して間もない頃でした。彼女の著書『看護覚え書』の理念や合理的的精神と、看護教育に浸透していた『ナイチンゲール誓詞』の強調する献身や奉仕の精神とのずれが気になっていた矢先に、舞い込んできた執筆依頼を断る理由は見当たりませんでした。数多いエピソードの中からどれを選択するか迷った末に、彼女の看護師として、女性として、人間としての自立に至るプロセスを描くというアイデアを軸にどうにかまとめ上げたら、編集部から何か所もの修正を求められました。私にはナイチンゲールの人間らしさの現われと思えるエピソードが、編集部には彼女のイメージを損なう不都合な真実だったようなのです。修正はできない理由を詳細に説明し、若手の担当編集者が納得してくれて私の言い分がすべて通ったのも、今となっては懐かしい思い出です。

## 日本保健医療行動科学会雑誌 「投稿論文」随時受付中

学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。

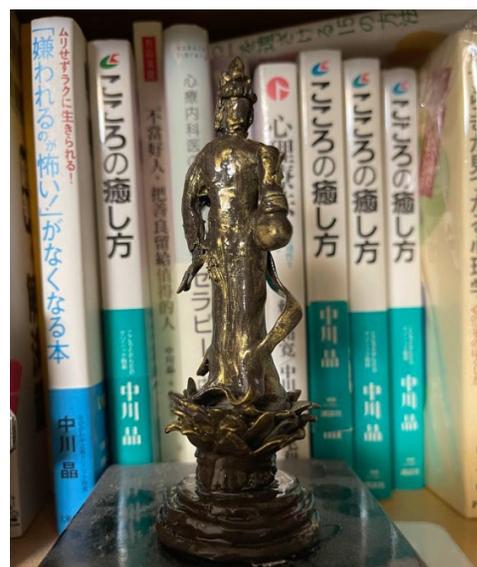
雑誌の発行は年2回(6月及び12月の予定)です。

投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。

投稿論文は「オンライン投稿・査読システム(Editorial Manager®)」にて受け付けとなります。

投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト(<https://www.jahbs.info/>)の

『雑誌』投稿についてのページに掲載しています。

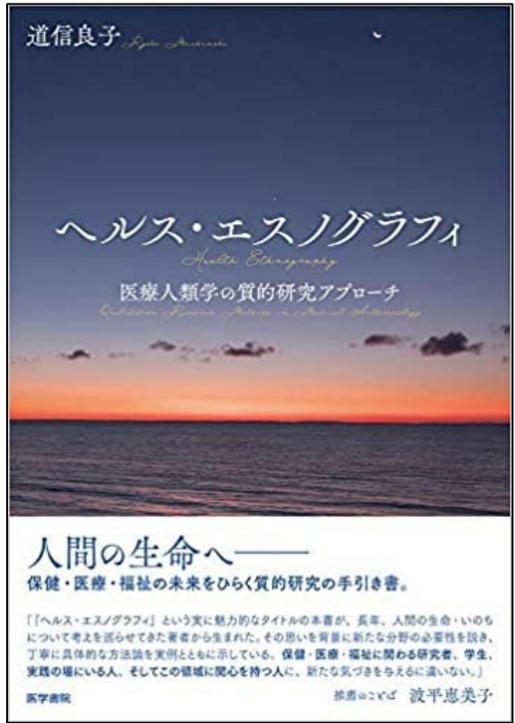


※中川晶作:土仏シリーズ※



『ヘルス・エスノグラフィ 医療人類学の質的研究アプローチ』  
道信良子著、医学書院、2020年9月刊（全305頁）

紹介者 道信 良子（福井県立大学）



このたび、医学書院より、『ヘルス・エスノグラフィ』を上梓しました。本書は、医療人類学の方法論であるエスノグラフィの入門書です。保健・医療・福祉の領域において質的研究を行うための基本的視点と方法を人類学の理論に基づいてまとめています。

本書のタイトルの由来は、保健・医療・福祉の中心概念「ヘルス」と、人類学の「エスノグラフィ」をあわせていることです。インタビュー、参与観察、フォーカス・グループ、アクション・リサーチ、写真や映像を用いた探究(フォトボイス)など、質的研究の手法は多様です。私は、これらを包摂するエスノグラフィに着目し、これまで私が行ってきた20年間の研究成果をもとに、保健・医療・福祉の領域における統合的な方法論としてヘルス・エスノグラフィを論じました。

本書では、はじめて研究を行う人にも、新しい知見を発見する醍醐味を味わってもらいたいという願いを込めて、研究のステップをできるだけ丁寧に論じました。エスノグラフィをはじめとする質的研究は、対象者となる人の日常の経験に立脚し、オリジナリティのある概念や理論で、日常現象の本質を論じる手法です。患者、家族、生活者、あるいは専門が異なる職種の人など、多様な人々とのかかわりのなかで生まれたことばや説明枠組みが、「人間とは何か」「生きるとはどういうことか」を考える切り口になっていきます。

「ヘルス・エスノグラフィ」の特徴は、「文化」から「生命」へと探求の軸を移し、「生命」の質的研究の繁栄と共に、エスノグラフィを発展させることです。

目次

はじめに	第5章 参与観察
序章 ヘルス・エスノグラフィへの招待	第6章 質的分析
第1章 ヘルス・エスノグラフィの視点	第7章 システム
第2章 フィールドワーク	第8章 ナラティブ
第3章 インタビュー	第9章 事例でみるヘルス・エスノグラフィ
第4章 ナラティブ・インタビュー	おわりに

会員勧誘のお願い

会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧めくださいますようお願いいたします。なお「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会 Web サイト (<https://www.jahbs.info/>) からダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 中川記念奨励賞を受賞して 鷹田佳典（日本赤十字看護大学）



2018年度に中川記念奨励賞をいただいてからはや6年余りの月日が経過しました。当時私は、任期付きの助手や研究員を続けていた頃で、なかなか先が見えない不安を抱えながら研究生活を送っている時期でしたが、そうしたときにこの歴史と栄誉ある賞を与えていただき、なんとかこの道で頑張っていこうと気持ちを奮い立たせることができました。現在こうして研究を続けていられるのも、本賞の受賞があったからだと思います。改めて選考委員のみなさま、学会のみなさまに深く感謝申し上げます。

私が本学会に初めて参加したのは2015年の第30回大会でした。そこでは、当時取り組んでいた病院ボランティア（ピアサポーター）に関する研究成果の一部を報告し、

司会の先生やフロアの参加者のみなさまから大変唆に富むフィードバックをいただきました。その後も本学会では数年おきに発表を行ってきましたが、毎回、私の専門である社会学だけでなく、医学や看護学、心理学、人類学など、多様な領域の方から刺激的で温かいコメントをいただくことができ、多角的な視点から自身の研究を深めることができている。こうした幅広い領域の方が参加している点は、本学会の大きな魅力であると感じています。

ここ数年は、医療者のsufferingに関する社会学的研究に取り組んできました。これまで医療社会学の領域では、患者や患者家族のsufferingに主たる関心が向けられてきましたが、死生の際で働く医療者もまた、さまざまな形でsufferingを経験しています。しかし、医療者（特に医師）の英雄性を強調する近代医学において、そうした医療者のsufferingについては軽視、ないし無視されてきたのではないかと、という思いから、本研究プロジェクトに着手しました。これまで約40名の医療者にインタビュー調査を行い、特に患者の死をめぐって医療者がどのような経験をしているのかについて検討を重ねています。本学会では2017年と2022年に内容の一部を報告させていただきましたが、今後は『保健医療行動科学会誌』の掲載を目指し、論文化の作業を進めていきたいと考えております。

## 委員会活動紹介～広報委員会～

広報委員長  
岡美智代

広報委員は常設の委員会で、岡美智代（委員長）、小林好信、白土菜津実、林哲也の4人で担当させていただいております。会員の皆様への有用な情報のご提供、ならびに会員・非会員を問わず本学会の取り組みのご紹介を主な目的として活動していきたいと考えております。担当内容としては、ウェブサイトの構成・維持管理であり、具体的には学会・学術大会・支部からのお知らせ、事務内容の連絡、入退会案内、日本保健医療行動科学雑誌への投稿ガイドラインやバックナンバーの紹介などを担当しています。また、ニュースレターの年3回発行も担当しており、その具体的な内容は、学会・学術集会・支部からのお知らせ、会員や委員会からの情報発信、事務内容の連絡などを掲載しております。さらに、2020年からは、学会主催のオンライントークも主催しており、学術大会とは違った視点で焦点化したテーマで学術交流を企画・運営しています。

広報委員は、学会活動の発信拠点であり、かつ人々や社会にとのインターフェースでもあります。会員や非会員の皆様に役立つ情報を発信し、本学会の発展に寄与したいと思っております。会員の皆様が、発信したい情報があれば、是非お寄せいただければと思います。

### ※中川晶作：土仏シリーズ※



## 🗨️ 委員会活動紹介～編集委員会～

編集委員は現在11人のメンバーで、投稿論文の審議と特集・鍵概念の企画、学会雑誌の発刊作業を行っています。昨年、秋よりオンライン投稿システムが導入され、順調に会員の皆様に投稿いただいております。オンライン投稿が開始から約1年になりますが、導入後17本の投稿論文の採否の審議を行っております。質の高い学術論文を創出していくことは、本学会の重要な責務の一つであり、また社会に対する学術的な貢献であります。編集委員会のメンバーは、こうした意識を持ち、忙しいながらも活動しております。

採択される論文は、1/3程度です。2回の査読では修正が難しいと判断された論文については、初回審査で採択不可になりますが、丁寧な査読のコメントが返却されますので、それを下に再度新規投稿していただきたいと思っております。

第37巻1号の特集テーマは、「保健医療の行動科学再考」でした。次回の38巻1号では、個人情報保護法の制定により個人のプライバシーの保護が厳格化してまいりましたので、改めて、対象の保護、研究の倫理について、特集を組みたいと考えています。また、特集については、会員の皆様からもご意見やご希望をお伺いしたいと考えております。[edit@jahbs.info](mailto:edit@jahbs.info)まで、ご連絡いただければ幸いです。

編集委員長  
樋口倫子



※中川晶作:土仏シリーズ※

## 🗨️ 委員会活動紹介 ～企画運営委員会～

企画運営委員長  
諏訪茂樹

企画運営委員会の活動報告として、第3回オンライントークの紹介をします。「患者・家族会の活動を通して思ったことー活動の意義、困難、秘訣」実施報告本学会の主催により、2022年11月13日(日曜日)の19:00から90分間、第3回オンライントーク「患者・家族会の活動を通して思ったこと」が開催されました。子どもの脳神経外科の治療を通してつながった家族会の三上葉子氏(にじいろの電車代表)をお招きし、活動の意義、困難、秘訣についてお話しいただきました。29名の学会員および非会員の方に、事前にお申込みいただきました。当日は22名の医療職、教育職、ご家族がZoomオンライン上に集まり、三上氏によるお話しの後に対話しました。安心・安全で質の高い医療を実現するうえで、患者・家族会の活動はとても大切な役割を果たします。別の言い方をすれば、患者・家族会が活動できるような医療機関こそが、質の高い医療を提供できるのだと、つくづく思いました。

大きな医療系学会であれば大会の際に患者会のブースが設けられますが、本会は小規模であり、また特定疾患に関する学会でもありません。そこで、今後もオンライントークという形で、当事者・患者との対話を継続していけることを、私としては希望しております。

ご参加いただいた皆様、とくに患者・家族会の皆様に、心より感謝申し上げます。



★国際交流委員会・中川記念奨励賞選考委員会は次号にて紹介します★

# 事務局 便り

- 2022 年度会費(2022 年4 月1 日～2023 年3 月31 日)及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください(会員管理システム導入に伴い、会費の納入はオンラインでの銀行振込(りそな銀行宛)またはクレジットカード決済(各種)となります)。詳しくは本学会 Web サイトをご参照ください。
- 2013 年 6 月(第 10 期)以降の理事会議事録及びニュースレター(第 81 号～第 99 号)を学会 Web サイトの会員専用ページに掲載しています。会員専用ページへのリンクは会員マイページにあります。ニュースレター第 100 号以降は学会 Web サイトで一般公開しています。
- 退会をご希望の場合は、本学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイルを e メールに添付して事務局に送付してください。

(事務局連絡先:[info@jahbs.info](mailto:info@jahbs.info))

## 事務局 移転

2022 年 10 月 1 日より、本会事務局が以下の通り変更となりました。お間違えのないよう、お願い致します。

住所:〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-1-22-702  
日本保健医療行動科学会 事務局

メール:[info@jahbs.info](mailto:info@jahbs.info)

事務局担当者:旭(あさひ)

対応可能日時:基本的に毎土曜日 9:00-17:00

## 新事務局員へ挨拶

初めまして。ご挨拶の機会をいただきありがとうございます。10 月より、事務局業務を担当させていただきます。旭と申します。

—この度のご縁に感謝して、学会員の皆さまのお役に立てますようしっかりと努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

旭(あさひ)

## 編集後記

ニュースレター第106号から広報委員を拝命し、ニュースレター担当となりました白土菜津実です。どうぞよろしくお願いいたします。今号からニュースレターはオンライン化となり、フルカラーとなりました。フルカラーに伴いデザインも一新し、皆様読んでいて、楽しくなるようなニュースレターを目指しました(中川先生の作品もより綺麗に見れるようになりました!)。今号では1~5項に第37回日本保健医療行動科学会学術大会のお知らせ、6項に支部活動報告、7~8頁に宮本先生と道信先生による本のご紹介、9頁に2018年度に中川記念奨励賞を受賞された鷹田先生の活動報告、9~10頁には委員会活動報告と盛りだくさんとなっております。ニュースレター担当だけでなく、Web担当も交代しましたので、今後ホームページのデザインも変更予定です。皆様のご意見やご感想を、是非お待ちしております。今年も残り少なくなりました。皆様、素敵なクリスマスとお正月をお過ごしください★(白土)

発行:日本保健医療行動科学会 〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-22-702